

平成30年度第1回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	平成30年8月21日(火)
開催場所	新庄市役所第1・2会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、阿部仁美委員、斉藤浩昭委員
欠席者	なし
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、佐藤主幹、山科教育総務主査、高橋施設整備主査、齊藤主事

議 事 の 大 要

午後2時55分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査について

(市長) (1) 平成30年度全国学力・学習状況調査について説明をお願いします。

(学校教育課長) 4月17日に市内全校で国語、算数、数学、今年は3年に1回の理科も行いました。アクションプラン、改善策は学校の分析を待って、市の分析をまとめ後日作成予定です。調査結果は、小学校ですべて全国平均より上回っており、特に国語Bが大きく上回っています。中学校は、国語Bと理科が全国平均を上回り、国語Aと数学は下回っていますが、どちらも昨年度より改善され、理科も改善しています。分布図を見るとほぼ全国並みですが、傾向として比較的上位層が少なく、逆に算数、数学においては中位や下位層が多くなっています。次に質問紙について、より傾向を見るために、「あてはまる」のみを拾い全国と比較しました。児童、生徒の傾向としては、「自己肯定感、規範意識」が高く、また地域に関する項目が高く、「行事への関心」とか「参加率」などが目立っています。授業についても「自分で進んで取り組んでいる」そう感じている児童、生徒が非常に多いです。一方で放課後や週末は、小中ともにテレビ、ゲーム等の時間が長くなっています。また、「家庭学習を2時間以上している」が少ないです。中学校では数学の授業に苦勞している生徒がいるとの結果が見えています。学校質問紙では、教育課程について小・中共通した取組みで小中一貫の成果を感じています。また授業改善は「探求型、習得・活用に応じた授業改善を行っている」「地域の出来事を題材として扱っている」の評価が高いです。一方「あてはまる」が少なかった「カリキュラム・マネジメント」で、相互関連させ時数を管理することで授業内容をもっとマネジメントすることが必要と思います。「調査結果の活用」の「日常の授業や指導に反映している」は「どちらかというやっている」は多いのですが、「よくやっている」というのは少なかったです。最後に、学力が改善されてきた理由として、まず単元の工夫や課題の吟味等、探求型の授業が周知されてきたということです。それから学級差をなくし、学年全体、学校全体、または小中一貫

で取り組んでいる成果が出ていると思います。一部では教科担任制の成果も見られます。今後、落ち込みやつまずきのある問題を特に学習していく必要があります。2 学期以降の学校訪問で、授業改善について、課題設定と教師の役割、教え込みではなくて児童、生徒が主体となる授業改善やまとめ、振り返りがある授業ということで、ただ学ぶだけではなく深い学びにつながるような授業設定を指導していきたいと思います。

(市長) 委員の皆さんから何かご質問等ございませんか。

(山村委員) 小学校で、国語 B が大きく上回った要因は探求型学習のみのなのか、他にも理由があるのか、どのように考えていますか。また中学校で数学 A・B が全国平均を下回ったものの、改善はされているということですが、小中一貫教育との関連はどう見えていますか。また、理科が小中で上回ったのは、私はその要因の一つとして教育研究センターの理科に特化した取り組みではと考えています。どうお考えですか。

(学校教育課長) 国語 B は、単元の中で言語活動の充実や、表現活動に力を入れており、複数の図書教材を使用した授業も行っています。また読書が好きな子供が多く、いろいろな問題に対応できる力の一つだと思います。難しい問題をみんなで考えながら、最後まで粘り強くやる姿勢が出てきたと考えています。数学は改善されており、学校や教科部会、学年全体で取り組んでいるところは、結果が良くなっています。主体的に基礎的な力を小学校で十分につけて、中学校の授業でも意欲的な子供をもっと育てていかなければと反省しているところです。理科はセンターの出前授業など理科学的分野に触れる機会が多いので、小中とも理科に対する関心意欲が高くなっています。教科担任として理科の専科としてやっている学校もあるので、成果が出ているとも考えられます。

(山村委員) 国語 B が良かった要因は、図書支援員の配置により、図書館で調べ物をしたいという雰囲気が出ており、それが成果につながったと思っています。数学・算数でも、授業だけでなく、このような他の手立てもないものかと考えています。教育研究センターに算数・数学の指導主幹が入り、新庄市との関わりはどうなっていますか。

(学校教育課長) 授業研究の指導助言はもちろんですが、指導案作りで算数・数学の興味関心が高まるような単元設定を作る段階で相談に乗ってもらうこともあります。授業づくりから関わってもらっています。

(山村委員) 全国平均より下回っていても、前年度との比較では向上しているという捉え方をしていくことで、先生方に広めていくそんな機会にしてもらいたいと思います。

(市長) 他にございませんか。

(阿部仁美委員) 探求型学習や教科担任制が成果を上げているという話でしたが、学校訪問で授業を見ると探求型学習があまり進んでいないと感じる学校もあります。学校によって学力検査の結果に差はありますか。

(学校教育課長) 11校ありますので、多少はあります。

(阿部仁美委員) 探求型学習を積極的に取入れている学校の方が、成績がいいという結果になっていませんか。

(学校教育課長) 学校の規模が違うので、探求型にもいろいろな視点があり、どの学校でも児童生徒が主体的に取り組むようにしていますので、一概には言えません。学校全体で意識して校内研究などに取り組んでいるかが大きいと考えています。

(教育長) 探求型学習をしっかりと取り組んでいる学校は、数値的には高いです。教科担任制についても、義務教育学校以外でも担任以外の先生が理科の授業をしているところは、理科がぐっと良いという学校もあります。義務教育学校の良さに、中学校の先生が小学6年生に教える機会があり、その成果が数字に表れていると思います。国語では、同じ先生が小学校から中学校まで一貫して教えています。そんなことができるのが義務教育学校の良さだと思います。国語Bは、本好きや資料の読み取り、新聞記事のタイトルつけなどの活動をしているので悪くないはずです。算数は系統性が高い教科であるので、小学校で頑張っていないと中学校だけでは頑張れ切れないものかなと思っています。学校だけではなく施策として考えていかなければならないと考えています。

(市長) 地域の教育力、学習力がないと地域にとって民度が低いと思われることがあるので、どうしても学力という観点で見ることがあります。最終的には、子供達に学習を通して、どう生きてもらうかということを考えなければと思います。全員が100点を取れるということはあり得ないことで、あなた達は必ず社会で役立つ部分を持っていると伝える必要があります。我々は社会から育てられ、そこに恩返しする必要があるのだと、だから学ぶのだと。家庭によって様々な考えがあり、高学歴でなくともいいという家庭もあり、子供達がみんな同じ方向を見ているとは考えられません。夢を子供たちに語らせて、そのためにどのように準備をしていくのかだと思っています。学力の結果に一喜一憂して良かった、悪かったというだけで新庄の子供達は終わって欲しくない。それぞれの夢を実現するために努力していくことを底辺において欲しいと思います。

(市長) 他に何かございませんか。

(斉藤委員) 小中学校とも自己肯定感や規範意識が高い、地域行事に関心がある、学習も家庭でやっているという反面、家庭での過ごし方で、ゲームやインターネットに割いている時間が多いということですが、それに対する対策というかどのような方向性で行くのか考えを聞かせていただきたい。

(学校教育課長) 家庭との連携はどの学校でもPTAの柱としてやっているもので、学校から伝えたり、保護者の意見を聞いたりしていますが、家庭の約束や学校と一緒に決めたルールが守られているかの確認はかなり難しい所もあると思っています。中学校では、家庭で時間を決め計画を立て時間管理をしているのですが、そういう力を小学校からもつけていかなければならないと考えています。

(齊藤委員) 家に帰って一人でいることが多かったり、あるいは家族と一緒にいることができない環境があったりということが多くなってきていると思います。子供達が気持ちも精神も安定して学校に行ったときにしっかり学べる環境が、全員に整っているかというところなのかなという部分もありますし、そんなところもゲームやテレビに逃げている要因になっているのかなと感じます。一律にできるかというところ難しい部分があるのですが、保護者も一緒に子供と勉強していく必要があると思います。環境を整えるためにPTAでワークショップなどを立ち上げるなど、話し合いの場が必要になってくるのかなと感じています。

(市長) 昔、教育講演会などよくありましたが、最近ないですね。少ないですね。

(教育長) 学校によって研修会などしているところがありますが、なかなか人が集まらないというのも現実かなとも思います。

(市長) 人がなかなか集まらなくなりましたね。人がみんな同じ時間帯で動いていないからね。

(齊藤委員) (研修会など) もうやめようかという話にもなるのですが、やめるとまた立ち上げるのが大変なので継続する中で少しでも参加率を上げていくように取り組んでいます。

(市長) 萩野学園はPTAが立候補制でしたか。それぞれ自分たちでやれる人が集まりましょうと。

(教育長) 今後どのように続けていくかが課題だと思います。

(市長) ゲーム好きを活かして、自分で学習ソフトを作って東大に入ったという話があります。自分の夢を叶えるためには、学ばなければならないと気づき、どのような方法なら入れるか、一番得意なのはテレビゲームだと、テレビゲーム用に問題を作り、パソコンで全部覚えていったそうです。学力が上がることは多くの市民にとっても良い事です。秋田県の教育は日本でも有数になっています。25年前頃、山形県の東北大学への進学率が高い事で、秋田県が山形県の教育を勉強に来て、それからの秋田の本気で学力を上げる取り組みがここ10年で出ています。目標を決めてやっているということがすごいですね。これからの新庄市の取組みも、テスト以外にもいろいろ分析してトライして欲しいと思います。

(市長) 他にございませんか。

(阿部浩悦委員) 読書が好きな子供が増えているのは確かだと思います。うちの孫が4ヶ月健診にブックスタート事業で本をもらってきました。母親の読み聞かせが、小学校に行っても様々な団体の読み聞かせを聞くようになる。自分で読めるようになる。自分で読む。そんなきっかけが大事なかなと思いました。教育委員会委員として全国の表彰を受けたときに、秋篠宮様が地域と学校、家庭の連携とおっしゃっていました。基本的にそれが一番大事なことであって、今、教育の中で抜けているのが家庭ではと思います。家庭学習、これには親が関わってきますが、親が子供に勉強をさせない、または子供が親の背中を見ないということがあると感じます。先生の背中を見るとい

うこともあります。自分の体験で、先生が嫌いになってその教科も嫌いになったということがありました。何気ない一言やちょっとしたきっかけで教師が逆に学ぶ機会を阻害することもあるのでは。学校、家庭そして地域を繋ぐのは、先生であり、保護者であり、先生はもっと地域のことを知り、家庭とのつながりを密にしなければならないし、親である地域の人間はもっと学校のことを知らなければならない。PTO という、萩野学園は学校が一つになって新しい取り組みをできたことは素晴らしい事だと思います。それが繋がっていくことが教育であり、地域づくりに繋がっていくのではと思います。母校の新庄中学校を危惧するのは、子供が少ないということです。これから活動にどうやって取り組んでいけるのかというところが一番危惧するところです。

(市長) 新庄でも、将来人口が 28,000 人くらいに減るのではと言われてはいますが、その規模で学校や地域を運営しているところを見ておく必要があると思います。高齢化は西の方が早く 10 年前に今の状況が来ていると言われてはいます。人口が 30,000 人切った時の学校の数のあり方や、地域割など参考になるところがあるのではと思います。

皆さんの意見から、子供達の勉強をどうサポートしていくか、萩野学園の教科担任制が有効であるとすれば、それらをどのように取り組めるか、別の面で模索する必要があるのかなと思います。

(市長) 他にございませんか。

(山村委員) これから英語や学力を高めるために、教科の授業が増えてくる可能性があり、心配なのは総合的な学習の時間が減るのではということです。地域や家庭との関わりを学ぶのは、総合学習であると思います。地域と学校と保護者が関わりながら学習することで、地域力を高めることができるのではと思います。

(教育長) 教科マネジメントをしっかりする。また、数学や算数などちょっとしたきっかけで分かっていくということがあります。ゲーム感覚でできる機器などもあるので、算数 A への対応としてどうだろうと思います。今年、夏休み中に社会教育施設が様々な体験学習をやってくださり、800 人くらい子供達が来ました。子供の居場所作りとともに、放課後子ども教室を現在 2 校でしていますが、もっと充実させ、社会教育施設でも実施し、面白さと居場所が、学ぶきっかけに繋がるような手立てを考えていかなければと思います。それからなぜ勉強するのかといったときに、自分の可能性やチャンスを活かすために必要な力を学ぶことだよと感じています。

(市長) 学校で高齢者学級を開けないかと思っています。給食もありで、授業参観ではなく、実際に教師の OB を先生に勉強したり、運動会の近くになれば草むしりの協力をしたり、ふれあいの場というか、子供たちと一緒に学ぶという。そのような体験があってもいいのではないかと思います。学力状況調査についてはこれでよろしいですか。

(2) 学校における働き方改革について

(市長) 2 番目の学校における働き方改革について事務局より説明をお願いします。

(教育次長兼教育総務課長) 学校を取り巻く状況が複雑化、多様化しており、連動して教職員の業務が

複雑化・多忙化しています。国や県の動きに呼応するかたちで市教委として実態把握や対策を検討するとともに、教育委員会職員全体の理解と意識の共有化を図りながら意見を集約してきました。今年度は、部活動指導員、スクールサポートスタッフの配置を行っています。また、お盆と新庄まつりの時期に全校で学校閉庁日を設定しており、教育委員会内部でも教職員の業務負担を軽減させるために、何ができるか検討してきています。基本的な視点として、教員の業務の簡素化、業務の効率化、業務改善の意識化の視点となります。この三つの視点を基に働き改革を進めていきたいと考えています。この三つの視点に基づき、教育委員会では、国・県への人的配置の拡充を要望することや、教職員のサポート体制を充実させる人的配置の拡充、業務の簡素化や効率化のための環境整備、また学校閉庁日の設定、教職員が関わる事務事業の見直し、教職員と教育委員会職員の意識改革が上げられると思います。次に学校では、管理職の学校マネジメント力の向上、勤務時間の徹底管理。また ICT を活用した業務の効率化、そして学校用務の見直し、また教職員と教育委員会の意識改革が必要だと思います。学校における働き方改革について、共通認識を図っていただき、その方向性について確認していただきたいと考えています。そのうえで学校における働き方改革に向けた指針的なものを作っていければと考えていますので、よろしく願います。

(市長) 国の方でも働き方改革法案を成立させて、取り組んでいます。学校での働き方改革もできることから、確実にどうしていくかということ。学校単位で極端に違ってはまずいかなと思います。教育委員会の考えを持っている学校もあると思います。どこまでしていいのかということもあると思います。さっそく皆さんから意見をいただきたいと思います。

(阿部浩悦委員) 週五日制は、ゆとり教育を推進するための制度であったかもしれないし、逆に先生方を休ませるための制度であったのですが、保護者や先生の中にも部活が土日にできないことや勉強時間が減ることへの反発があった時もありました。働き改革は学校の先生と保護者の理解を一緒に進め、相互理解がないといけないと思います。

(山村委員) ゆとり教育でゆとりが無くなったと思います。ゆとりの時間を計画立てて過ごさせなさいという文科省からの通達がありました。学校や教育委員会それぞれの計画に、学校によっては今まで以上に忙しくなる。学校と教育委員会と保護者が連携して、子供達のために何が必要なのかということを考えていかないと、ずっと同じことが起きてくると思います。学校の責任が問われ、先生方の心の負担が非常に大きくなっています。生徒指導の時間、部活の時間、そして教材研究の時間、寝る暇がないほどの時間です。そして保護者の対応。少子化になって子供にかけられる夢が大きく、学校にぶつけてくる場合があります。子供達のために何をすべきか、保護者の役割、学校の役割をきちんと理解し合わないといけないと思います。

(阿部仁美委員) 先生の本来の仕事は、勉強を教えることだと思いますが、その以外のことがあまりにも多すぎると思います。業務の簡素化など、絶対にしてあげなければならないことだと思います。児童や生徒が先生に暴力を振るうということが増えてきているとテレビで見ました。子供達が先生を、先生と見ていないからではないかなと思います。やはり、それは保護者が先生を、先生として見ていないからじゃないかなと思います。保護者が先生のことを理解することが、勉強を教える上でもすごく大切なことと思うので、保護者の理解を深めるために教育委員会としても働きかけをしてい

かなければならないのではと思います。

(齊藤委員) 先生は、地域行事、部活やPTAの会議への参加など、本当に大変だと感じます。保護者として何ができるか考えたときに、例えばPTAの会議など、以前は保護者の仕事が終わる時間が遅いので7時スタートとなっていました。それを変え、30分繰上げて6時半からスタートし、会議が始まる時は1時間で終わりますと明言して終わるように変えました。保護者への説明の中で、先生も大変なのだよと、今働き改革という大きな社会の流れがあるということをお話すると理解が得られることも多くなってきているので、ポジティブに考えていった方がいいのではないかなと思います。

(教育長) 本来、子ども達に指導することが一番大事な業務です。その時間が十分取れば、学力でも他のことでも、もう少し対応できるという思いがあります。保護者の理解が無ければできないことがたくさんあります。子供と向き合う時間を多くできるようにするのが、先生方にとって一番大事なことでないかなと思います。国や県や市で人的配置をできればいいが、すぐには難しい。保護者に理解を求めるのに、その対応が長時間に渡ることもあります。やれるところはしてあげられたらと思います。

(市長) 教育委員会として、一つの方向性を示し、現場の先生方に意識付けして、共有していかなければならないだろうと思います。働き方改革は社会の大きな変化の一つです。IT化が進み24時間ボーダーレスの中で、学校だけが昔と同じスタイルでいいのかということが問われているということ。子供の能力を伸ばしてあげたい、教員の優れた能力を子供に伝播するということは大事だと思いますが、最終的には命にかかわること、これを底辺においてやってきた新庄市の命を大切に教育は、教育委員会として今後も各学校にこれだけは守ってほしいということを徹底してもらいたいと思います。クレーム対策などは市全体として考えなければならないことかなと思っています。また、養護主事を市で配置していますが、学校教育とも連携しながら活用していただきたいと思っています。学校閉庁、事務事業の見直しや教職員のワークライフ・バランスなど、できることから取り組んでいく必要があります。IT社会になり、本当は学校で学び、人と人が関わり合うことで、人間は育つというのが本来の学校の機能と思いますが、ITで家に居ながら学習ができる社会を作ってしまうと怖いと思います。人の気持ちや痛みをわからないで世の中に出る。そうすると自分のことしか考えない。プラスかマイナスかしか考えず、その中間のところはわからないという人が増えます。義務教育ではいかに学校に来させて学ばせるか、その辺はぜひ力点を置いて欲しいと思います。教育委員会ですでるところは、きちんと学校に指示し、学校と教育委員会が共有してそのことは学校にはこのように指示してますよと。学校への連絡は6時までしか受け付けられない学校が他であると聞きましたが、7時以降は学校に先生はいません。緊急の連絡網はありますが、一般的な対応を減らし、先生の負担を軽減させていくことなど、教育委員会ですべて現場と教育委員会と意識に差がないようお願いしたい。ここに書いてあることが基本的だと思いますので、その方法について研究していただきたい。

(市長) 他になければこれで協議を閉じさせていただきたいと思います。

4. その他

特になし

5. 開会

午後4時47分閉会する。